

認定看護師教育基準カリキュラム
(特定行為研修を組み込んでいない教育課程：A 課程教育機関)
改正概要

分野	がん放射線療法看護		
分野特定年	2008 年	認定開始年	2010 年
カリキュラム検討期間	2019 年 4 月～2020 年 2 月		
【改正趣旨】			
<p>がん放射線療法看護分野の教育基準カリキュラムは 2014 年度の改正から 5 年が経過するため見直しを行い、がん放射線療法看護を取り巻く近年の情勢から学習が必要な内容を単元に追加し、文言を適切な表現に修正した。また、60 時間で設定されていた教科目「がん放射線療法に伴う有害事象マネジメントとセルフケア支援」は「がん放射線療法に伴う急性期有害事象の症状管理」「がん放射線療法に伴う晩期有害事象の症状管理とセルフケア支援」「密封小線源治療および内用療法に伴う有害事象の症状管理とセルフケア支援」の 3 つに分割し、15 時間または 30 時間の設定に変更した。合同講義が認められる単元については、他のがん関連分野に合わせ文言を変更した。</p>			
【主な改正箇所】※詳細は別紙「新旧対照表」参照			
〔専門基礎科目〕			
1) 【目的・期待される能力】			
・目的 1 は、「がん放射線療法を受ける患者と家族の QOL 向上のため、熟練した看護技術を用いて水準の高い看護実践ができる能力を育成する」に変更した。			
2) 教科目「2. 腫瘍学概論Ⅰ」			
・旧単元 1) (1) (2) (3) 及び旧単元 2) (1)、旧単元 3) (1) は、他のがん関連分野と揃え括弧内の表記を追加した。また、旧単元 3) (1) には「遺伝子診断」を追加した。			
3) 教科目「3. 腫瘍学概論Ⅱ」			
・旧単元 1) は他のがん関連分野と揃え括弧内の表記を追加・変更した。			
・旧単元 5) 「代替補完療法」は「補完代替療法」に変更した。			
4) 教科目「5. がんの医療サービスと社会資源」			
・旧単元 1)、2)、3)、6) は、他のがん関連分野と揃え、文言を追加・整理した。			
5) 教科目「6. がん放射線療法概論」			
・旧単元 5) (4) は、単元 (1) 「外部照射」の下位項目とした。			
・旧単元 6) (2) ①は、「照射範囲設定の原則 (GTV・CTV・PTV など)」に変更した。			
・単元 6) ③「線量分布図、DVH」は最新の動向に基づき追加した。			
〔専門科目〕			
1) 教科目「1. 対象に合わせた放射線療法と看護」			
・旧単元 1) 及び旧単元 3) の「晩期症状」は、「晩期有害事象」に変更した。			
・旧単元 1) (9) は、「泌尿器、男性生殖器のがん」に変更した。			
・旧単元 2) は、単元名を「緩和的放射線治療 (集学的治療を含む)、有害事象の特徴と看護 (骨転移、脳転移、上大静脈症候群など)」に変更した。			
2) 教科目「2. がん放射線療法の治療計画管理における看護」			
・旧ねらい 2) 及び旧単元 1) (1) に、高齢化社会を反映して「高齢者」を追加した。			
3) 教科目「4. がん放射線療法に伴う急性期有害事象の症状管理とセルフケア支援」「5. がん放射線療法に伴う晩期有害事象の症状管理とセルフケア支援」「6. 密封小線源治療および内用療法に伴う有害事象の症状管理とセルフケア支援」			
・旧教科目「がん放射線療法に伴う有害事象マネジメントとセルフケア支援」(60 時間) を 3 つの教科目に分けた。			
「がん放射線療法に伴う急性期有害事象の症状管理とセルフケア支援」(30 時間)			

「がん放射線療法に伴う晩期有害事象の症状管理とセルフケア支援」 (15 時間)

「密封小線源治療および内用療法に伴う有害事象の症状管理とセルフケア支援」 (15 時間)

4) 教科目「4. がん放射線療法に伴う急性期有害事象の症状管理とセルフケア支援」

- ・教科目の分割に伴い、教科目のねらい及び単元を整理した。
- ・旧単元 2) (2) は「皮膚障害」に変更した。

5) 教科目「5. がん放射線療法に伴う晩期有害事象の症状管理とセルフケア支援」

- ・教科目の分割に伴い、教科目のねらい及び単元を整理した。
- ・単元 1) に (6) 「口腔・消化管障害」 (7) 「二次がん」を追加した。

6) 教科目「6. 密封小線源治療および内用療法に伴う有害事象の症状管理とセルフケア支援」

- ・教科目の分割に伴い、教科目のねらい及び単元を整理した。
- ・旧単元 4) の各治療を項目立てし、代表的な有害事象を追記した。
- ・「内用療法後の排せつ物の取り扱い」を単元に追加した。

**認定看護師教育基準カリキュラム(特定行為研修を組み込んでいない教育課程:A 課程教育機関)
新旧対照表 (がん放射線療法看護)**

別紙

下線部は改正箇所
ゴシック体表記は、合同講義が可能な単元

【目的・期待される能力】

旧	新	改正理由
<p>(目的)</p> <ol style="list-style-type: none"> がん放射線療法を受ける患者と家族の QOL 向上のため、水準の高い看護実践ができる看護職者を育成する。 がん放射線療法を受ける患者の看護において、看護実践を通して他の看護職者に対して指導ができる能力を育成する。 がん放射線療法を受ける患者の看護において、看護実践を通して他の看護職者に対して相談対応・支援ができる能力を育成する。 	<p>(目的)</p> <ol style="list-style-type: none"> がん放射線療法を受ける患者と家族の QOL 向上のため、<u>熟練した看護技術を用いて水準の高い看護実践ができる能力</u>を育成する。 がん放射線療法を受ける患者の看護において、看護実践を通して他の看護職者に対して指導ができる能力を育成する。 がん放射線療法を受ける患者の看護において、看護実践を通して他の看護職者に対して相談対応・支援ができる能力を育成する。 	<p>・目的 1 は他分野と揃え文言を変更した。</p>
<p>(期待される能力)</p> <ol style="list-style-type: none"> がん放射線療法を受ける患者の身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな状況を包括的に理解し、個別的なケアを計画、実施できる。 放射線の特徴及びがん放射線療法の治療計画を理解し、治療の再現性の向上・計画期間の遵守のための看護を実践できる。 がん放射線療法の有害事象についてアセスメントし、効果的な予防と症状緩和ができる。 がん放射線療法において確実な放射線防護策、安全管理を実践できる。 がん放射線療法を受ける患者・家族が、セルフケア能力を維持し、QOL 向上のための効果的な看護を実践できる。 がん放射線療法を受ける患者・家族の権利を擁護し、自己決定を尊重した看護を実践できる。 より質の高い医療を推進するため、多職種と協働し、チームの一員として役割を果たすことができる。 がん放射線療法看護の役割モデルを示し、看護職者への指導・相談対応ができる。 	<p>(期待される能力)</p> <ol style="list-style-type: none"> がん放射線療法を受ける患者の身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな状況を包括的に理解し、個別的なケアを計画、実施できる。 放射線の特徴及びがん放射線療法の治療計画を理解し、治療の再現性の向上・計画期間の遵守のための看護を実践できる。 がん放射線療法の有害事象についてアセスメントし、効果的な予防と症状緩和ができる。 がん放射線療法において確実な放射線防護策、安全管理を実践できる。 がん放射線療法を受ける患者・家族が、セルフケア能力を維持し、QOL 向上のための効果的な看護を実践できる。 がん放射線療法を受ける患者・家族の権利を擁護し、自己決定を尊重した看護を実践できる。 より質の高い医療を推進するため、多職種と協働し、チームの一員として役割を果たすことができる。 がん放射線療法看護の役割モデルを示し、看護職者への指導・相談対応ができる。 	<p>変更なし。</p>

認定看護師教育基準カリキュラム(特定行為研修を組み込んでいない教育課程:A 課程教育機関)
 新旧対照表 (がん放射線療法看護)

別紙

下線部は改正箇所
 ゴシック体表記は、合同講義が可能な単元

u003cdiv data-bbox="48 159 104 179" data-label="Section-Header">

【共通科目】

旧		新		改正理由
教科目	時間数 必修/選択	教科目	時間数 必修/選択	
1. 医療安全学：医療倫理	15 (必修)	1. 医療安全学：医療倫理	15 (必修)	変更なし。
2. 医療安全学：医療安全管理	15 (必修)	2. 医療安全学：医療安全管理	15 (必修)	
3. 医療安全学：看護管理	15 (必修)	3. 医療安全学：看護管理	15 (必修)	
5. チーム医療論 (特定行為実践)	15 (必修)	5. チーム医療論 (特定行為実践)	15 (必修)	
6. 相談 (特定行為実践)	15 (必修)	6. 相談 (特定行為実践)	15 (必修)	
4. 臨床薬理学：薬理作用	15 (必修)	4. 臨床薬理学：薬理作用	15 (必修)	
7. 指導	15 (必修)	7. 指導	15 (必修)	
8. 特定行為実践	15 (選択)	8. 特定行為実践	15 (選択)	
9. 臨床薬理学：薬物動態	15 (選択)	9. 臨床薬理学：薬物動態	15 (選択)	
10. 臨床薬理学：薬物治療・管理	30 (選択)	10. 臨床薬理学：薬物治療・管理	30 (選択)	
11. 臨床病態生理学	40 (選択)	11. 臨床病態生理学	40 (選択)	
12. 臨床推論	45 (選択)	12. 臨床推論	45 (選択)	
13. 臨床推論：医療面接	15 (選択)	13. 臨床推論：医療面接	15 (選択)	
14. フィジカルアセスメント：基礎	30 (選択)	14. フィジカルアセスメント：基礎	30 (選択)	
15. フィジカルアセスメント：応用	30 (選択)	15. フィジカルアセスメント：応用	30 (選択)	
16. 疾病・臨床病態概論	40 (選択)	16. 疾病・臨床病態概論	40 (選択)	
17. 疾病・臨床病態概論：状況別	15 (選択)	17. 疾病・臨床病態概論：状況別	15 (選択)	
18. 医療情報論	15 (選択)	18. 医療情報論	15 (選択)	
19. 対人関係	15 (選択)	19. 対人関係	15 (選択)	
計	105 (+305)	計	105 (+305)	

認定看護師教育基準カリキュラム(特定行為研修を組み込んでいない教育課程:A 課程教育機関)
新旧対照表 (がん放射線療法看護)

別紙

下線部は改正箇所
ゴシック体表記は、合同講義が可能な単元

u003c/div>

【専門基礎科目】

旧				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数	教科目のねらい	単元	
1. がん看護学総論	15	1) がん看護の専門性及び発展の背景や領域、課題を理解できる。 2) がん患者を理解する上で必要な概念を理解できる。	1) がん看護の専門性、発展と課題 2) がん患者・家族の特徴 (がん患者の QOL、がん患者の家族、がんサバイバーシップなど) 3) がん患者を理解するために必要な概念 (セルフケア理論、症状マネジメントモデル、ストレス・コーピング理論、危機理論など) 4) がんリハビリテーション 5) がん患者とヘルスプロモーション 6) 緩和ケア・エンドオブライフケア概論 (トータルペインの概念と全人的な理解を含む)	1. がん看護学総論	15	1) がん看護の専門性及び発展の背景や領域、課題を理解できる。 2) がん患者を理解する上で必要な概念を理解できる。	1) がん看護の専門性、発展と課題 2) がん患者・家族の特徴 (がん患者の QOL、がん患者の家族、がんサバイバーシップなど) 3) がん患者を理解するために必要な概念 (セルフケア理論、症状マネジメントモデル、ストレス・コーピング理論、危機理論など) 4) がんリハビリテーション 5) がん患者とヘルスプロモーション 6) 緩和ケア・エンドオブライフケア概論 (トータルペインの概念と全人的な理解を含む)	変更なし。
2. 腫瘍学概論 I 【新設】	15	1) がん看護実践に必要ながんに関する医学的知識を理解する。 2) がん細胞、疫学、診断、予防検診を理解することでがん医療を学ぶ基礎的な知識を理解する。	1) がん細胞の特徴 (1) 細胞の構造 (2) 細胞の発育過程 (3) がん細胞の特徴 2) がんの疫学 (1) 統計 (2) がん登録システム 3) がんの診断 (1) 診断方法 (画像、腫瘍マーカー、血液検査、病理など) 4) がんの予防と検診 (1) がんのリスク因子 (2) がん検診の有効性	2. 腫瘍学概論 I	15	1) がん看護実践に必要ながんに関する医学的知識を理解する。 2) がん細胞、疫学、診断、予防検診を理解することでがん医療を学ぶ基礎的な知識を理解する。	1) がん細胞の特徴 (1) 細胞の構造 (<u>核、細胞質、細胞膜</u>) (2) 細胞の発育過程 (<u>分裂、増殖、アポトーシス、シグナル伝達など</u>) (3) がん細胞の特徴 (<u>発生のメカニズム、増殖、浸潤、転移、ゲノム</u>) 2) がんの疫学 (1) 統計 (<u>罹患率、死亡率</u>) (2) がん登録システム 3) がんの診断 (1) 診断方法 (画像、腫瘍マーカー、血液検査、病理、遺伝子診断など) 4) がんの予防と検診 (1) がんのリスク因子 (2) がん検診の有効性	・旧単元 1) (1) (2) (3)、は他のがん関連分野と揃え括弧内の表記を追加した。 ・旧単元 2) (1) は他のがん関連分野と揃え括弧内の表記を追加した。 ・旧単元 3) (1) は他のがん関連分野と揃え括弧内に「遺伝子診断」を追加した。

3

認定看護師教育基準カリキュラム(特定行為研修を組み込んでいない教育課程:A 課程教育機関)
新旧対照表 (がん放射線療法看護)

別紙

下線部は改正箇所
ゴシック体表記は、合同講義が可能な単元

u003cbr>

旧				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数	教科目のねらい	単元	
3. 腫瘍学概論Ⅱ 【新設】	15	1) 認定領域以外のがん治療の特徴を理解することで、がん患者の理解を深める。	1) がんの集学的治療 (化学療法併用放射線療法、術前・術後放射線療法) 2) IVR (Interventional Radiology) の対象と方法 3) 造血幹細胞移植 4) サイコオンコロジー 5) 代替補充療法	3. 腫瘍学概論Ⅱ	15	1) がん治療の特徴を理解することで、がん患者の理解を深める。	1) がんの集学的治療 (手術療法、薬物療法、放射線療法、免疫療法) 2) IVR (Interventional Radiology) の対象と方法 3) 造血幹細胞移植 4) サイコオンコロジー 5) 補充代替療法	<ul style="list-style-type: none"> 旧教科目のねらい 1) から「認定領域以外」を削除した。 旧単元 1) は他のがん関連分野と揃え括弧内の表記を追加・変更した。 旧単元 5) は正しい表記に変更した。
4. ヘルスアセスメント 【新設】	15	1) がん看護実践に必要なヘルスアセスメントの方法を理解する。	1) アセスメントプロセス 2) フィジカルアセスメント (呼吸機能、循環機能、脳/神経機能、栄養代謝状態、感覚・運動機能等) 3) 精神・心理的アセスメント 4) 社会的アセスメント 5) 家族のアセスメント	4. ヘルスアセスメント	15	1) がん看護実践に必要なヘルスアセスメントの方法を理解する。	1) アセスメントプロセス 2) フィジカルアセスメント (呼吸機能、循環機能、脳/神経機能、栄養代謝状態、感覚・運動機能等) 3) 精神・心理的アセスメント 4) 社会的アセスメント 5) 家族のアセスメント	変更なし。
5. がんの医療サービスと社会資源 【新設】	15	1) がん患者の療養の場の特性や在宅療養のために必要な基礎知識について理解する。	1) がんの医療政策 (診療報酬、がん診療連携拠点病院、相談支援センターなど) 2) がんのチーム医療 (放射線腫瘍医、放射線技師、がん看護専門看護師、他の認定看護師など) 3) がん患者と家族が活用できる社会資源 (高額療養費制度、在宅悪性腫瘍指導管理料、在宅酸素療法など) 4) がんと医療経済 (治療費、就労問題など) 5) 在宅医療を支える職種間の連携 6) 在宅療養・外来通院するがん患者と家族を支援する看護師の役割	5. がんの医療サービスと社会資源	15	1) がん患者の療養の場の特性や在宅療養のために必要な基礎知識について理解する。	1) がんの医療政策 (がん対策基本法、がん対策推進基本計画、がん登録等の推進に関する法律、診療報酬など) 2) がんのチーム医療 (放射線腫瘍医、診療放射線技師、がん看護専門看護師、他の認定看護師など) 3) がん患者と家族が活用できる社会資源 (高額療養費制度、在宅酸素療法など) 4) がんと医療経済 (治療費、就労問題など) 5) 在宅医療を支える職種間の連携 6) 在宅療養するがん患者と家族を支援する看護師の役割	<ul style="list-style-type: none"> 旧単元 1) は、他のがん関連分野と揃え、括弧内に「がん対策基本法」「がん対策推進基本計画」「がん登録等の推進に関する法律」を追加した。 旧単元 1) の括弧内の「がん診療連携拠点病院」、「相談支援センター」は、がん対策推進基本計画に含まれるため削除した。 旧単元 2) の「放射線技師」は正式な名称「診療放射線技師」に表記を変更した。 旧単元 3) 括弧内の「在宅悪性腫瘍指導管理料」は、診療報酬の項目であり、単元 1) に含まれるため削除した。 旧単元 6) は他のがん関連分野と揃え、「外来通院」を削除した。

認定看護師教育基準カリキュラム(特定行為研修を組み込んでいない教育課程:A 課程教育機関)
 新旧対照表 (がん放射線療法看護)

別紙

下線部は改正箇所
 ゴシック体表記は、合同講義が可能な単元

u003c/divu003e

旧				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数	教科目のねらい	単元	
6. がん放射線療法概論	30	放射線療法における医療チームで役割を担うため、放射線腫瘍学の基盤となる知識を習得する。 1) 今後の放射線療法の展望を踏まえ、変化の著しい放射線療法の動向について理解する。 2) 放射線物理・生物学的基礎知識を理解し、放射線の物質や生体に及ぼす影響を踏まえ、治療計画の理解や有害事象に対するケアに応用する。放射線療法の治療目的を理解する。 3) 安全で効果的な放射線照射法、治療装置を理解する。 4) 治療計画を理解し、再現性の確保や有害事象に対するケアに応用できる。 5) 放射線療法の効果判定方法・基準及び有害事象共通毒性規準について理解し、患者のアセスメントに応用できる。	1) 放射線療法の動向 2) 放射線物理学 放射線療法に用いられる放射線の種類と特徴 (X線、β線、γ線、粒子線など) 3) 放射線生物学 放射線の生体に及ぼす影響 (照射の量、回数、間隔) (1) 細胞の放射線照射による効果 (2) 組織、臓器の放射線照射効果、分割照射における組織の放射線感受性 (3) 放射線による各臓器の耐容線量 4) 放射線療法の治療目的 (1) 放射線治療の目的 (2) 目的別照射法の適応と方法 ① 根治的放射線療法 ② 予防的放射線療法 ③ 緩和的放射線療法 5) 放射線照射法の種類と治療装置 (1) 外部照射法 ① 照射法：固定照射法、運動照射法、IMRT (強度変調放射線治療)、SRI (定位放射線照射)、IGRT (画像誘導放射線治療) ② 治療装置：リニアック治療装置、陽子線治療装置、重粒子線治療装置、定位放射線治療装置 (2) 密封小線源治療 (高線量率、低線量率、腔内、管腔内、組織内、モールド、一時挿入、永久挿入) (3) 非密封小線源治療 (放射線核種 (RI) 内用療法) (4) 特殊治療 (術中照射、全身照射) 6) 放射線治療計画 (1) 診断・治療方針の決定、集	6. がん放射線療法概論	30	放射線療法における医療チームで役割を担うため、放射線腫瘍学の基盤となる知識を習得する。 1) 今後の放射線療法の展望を踏まえ、変化の著しい放射線療法の動向について理解する。 2) 放射線物理・生物学的基礎知識を理解し、放射線の物質や生体に及ぼす影響を踏まえ、治療計画の理解や有害事象に対するケアに応用する。放射線療法の治療目的を理解する。 3) 安全で効果的な放射線照射法、治療装置を理解する。 4) 治療計画を理解し、再現性の確保や有害事象に対するケアに応用できる。 5) 放射線療法の効果判定方法・基準及び有害事象共通毒性規準について理解し、患者のアセスメントに応用できる。	1) 放射線療法の動向 2) 放射線物理学 放射線療法に用いられる放射線の種類と特徴 (X線、β線、γ線、粒子線など) 3) 放射線生物学 放射線の生体に及ぼす影響 (照射の量、回数、間隔) (1) 細胞の放射線照射による効果 (2) 組織、臓器の放射線照射効果、分割照射における組織の放射線感受性 (3) 放射線による各臓器の耐容線量 4) 放射線療法の治療目的 (1) 放射線治療の目的 (2) 目的別照射法の適応と方法 ① 根治的放射線療法 ② 予防的放射線療法 ③ 緩和的放射線療法 5) 放射線照射法の種類と治療装置 (1) 外部照射法 ① 照射法：固定照射法、運動照射法、IMRT (強度変調放射線治療)、SRI (定位放射線照射)、IGRT (画像誘導放射線治療) ② 治療装置：リニアック治療装置、陽子線治療装置、重粒子線治療装置、定位放射線治療装置 ③ 術中照射、全身照射 (2) 密封小線源治療 (高線量率、低線量率、腔内、管腔内、組織内、モールド、一時挿入、永久挿入) (3) 非密封小線源治療 (放射線核種 (RI) 内用療法) 6) 放射線治療計画 (1) 診断・治療方針の決定、集学的治療における位置づけ	・旧単元 5) (4) は外部照射の手法の一つであるため、外部照射の下位項目とした。 ・旧単元 6) (2) ①は正式な名称に表記を変更した。 ・単元 6) ③は最新の動向に基づき追加した。

5

認定看護師教育基準カリキュラム(特定行為研修を組み込んでいない教育課程:A 課程教育機関)
 新旧対照表 (がん放射線療法看護)

別紙

下線部は改正箇所
 ゴシック体表記は、合同講義が可能な単元

u003c/div>

旧				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数	教科目のねらい	単元	
			学的治療における位置づけ 部位及び総線量、分割法、併用療法 (2) 放射線治療における照射範囲・深さ・角度の設定方法 ① 照射範囲設定の原則 (GTV・CTV・PIV) ② 照射方法別照射範囲設定方法 7) 効果判定、有害事象共通毒性規準 (固形がん、造血器腫瘍)				部位及び総線量、分割法、併用療法 (2) 放射線治療における照射範囲・深さ・角度の設定方法 ① 照射範囲設定の原則 (GTV・CTV・PTVなど) ② 照射方法別照射範囲設定方法 ③ 線量分布図、DVH 7) 効果判定、有害事象共通毒性規準 (固形がん、造血器腫瘍)	
7. がん放射線療法看護概論 【新設】	15	1) がん放射線療法における看護を展開するために、その基盤となる対象理解の方法とその看護について理解する。 2) がん放射線療法看護認定看護師の役割を理解する。	1) がん放射線療法を受ける患者の特徴 2) がん放射線療法看護の特徴 3) がん放射線療法の医療チームにおける看護の役割 4) がん放射線療法看護認定看護師の役割 (実践・指導・相談) 5) がん放射線療法を受ける患者・家族の意思決定支援	7. がん放射線療法看護概論	15	1) がん放射線療法における看護を展開するために、その基盤となる対象理解の方法とその看護について理解する。 2) がん放射線療法看護認定看護師の役割を理解する。	1) がん放射線療法を受ける患者の特徴 2) がん放射線療法看護の特徴 3) がん放射線療法の医療チームにおける看護の役割 4) がん放射線療法看護認定看護師の役割 (実践・指導・相談) 5) がん放射線療法を受ける患者・家族の意思決定支援	変更なし。
計	120			計	120			

6

認定看護師教育基準カリキュラム(特定行為研修を組み込んでいない教育課程:A 課程教育機関)
新旧対照表 (がん放射線療法看護)

別紙

下線部は改正箇所
ゴシック体表記は、合同講義が可能な単元

【専門科目】

旧				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数	教科目のねらい	単元	
1. 対象に合わせた放射線療法と看護	30	1) 各臓器、治療目的、成長発達段階の特徴ならびに標準治療法、放射線治療法と有害事象について理解し、看護アセスメント及びケアに活用する。	1) 各臓器別の標準治療(集学的治療を含む)、有害事象(晩期症状を含む)の特徴と看護 (1) 脳、脊髄、眼のがん (2) 頭頸部がん (3) 消化器がん (4) 肺がん (5) 乳がん (6) 骨・軟部組織のがん (7) 血液、リンパ組織のがん (8) 女性生殖器のがん (9) <u>泌尿器腫瘍、男性生殖器のがん</u> (10) 皮膚がん 2) <u>転移に対する標準治療(集学的治療を含む)、有害事象(晩期症状を含む)</u> (1) 骨転移 (2) 脳転移 3) 小児がんに対する標準治療(集学的治療を含む)、有害事象(晩期症状を含む) 4) 悪性疾患以外の放射線療法の適応 (1) ケロイド、血管腫 (2) 脳動静脈奇形	1. 対象に合わせた放射線療法と看護	30	1) 各臓器、治療目的、成長発達段階の特徴ならびに標準治療法、放射線治療法と有害事象について理解し、看護アセスメント及びケアに活用する。	1) 各臓器別の標準治療(集学的治療を含む)、有害事象(晩期有害事象を含む)の特徴と看護 (1) 脳、脊髄、眼のがん (2) 頭頸部がん (3) 消化器がん (4) 肺がん (5) 乳がん (6) 骨・軟部組織のがん (7) 血液、リンパ組織のがん (8) 女性生殖器のがん (9) <u>泌尿器、男性生殖器のがん</u> (10) 皮膚がん 2) <u>緩和的放射線治療(集学的治療を含む)、有害事象の特徴と看護</u> <u>(骨転移、脳転移、上大静脈症候群など)</u> 3) 小児がんに対する標準治療(集学的治療を含む)、有害事象(晩期有害事象を含む)の特徴と看護 4) 悪性疾患以外の放射線療法の適応 (1) ケロイド、血管腫 (2) 脳動静脈奇形	<ul style="list-style-type: none"> 旧単元 1)、3) の「晩期症状」は、一般的には「晩期有害事象」であるため表記を変更した。 旧単元 1) (9) は、他の単元名と表記の方法を統一するため、「泌尿器腫瘍、男性生殖器のがん」から「泌尿器、男性生殖器のがん」に変更した。 旧単元 2) は、「転移に対する標準治療」は、一般的には「緩和的放射線治療」であるため、単元名を変更した。 旧単元 3) は、他の単元名と表記を揃え「の特徴と看護」を追加した。

認定看護師教育基準カリキュラム(特定行為研修を組み込んでいない教育課程:A 課程教育機関)
新旧対照表 (がん放射線療法看護)

別紙

下線部は改正箇所
ゴシック体表記は、合同講義が可能な単元

u003cbr>

旧				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数	教科目のねらい	単元	
2. がん放射線療法の治療計画管理における看護【新設】	30	<p>がん放射線療法における適切な治療計画管理とリスクマネジメントについて理解し、患者にとって確実に再現性のある治療環境の整備と精度の高い治療を保証する援助を実践できる。</p> <p>1) 放射線治療中に生じる危険要因をアセスメントし、確実に再現性のある治療環境を整えることができる。</p> <p>2) 放射線療法を受ける小児と家族への援助について理解し実践できる。</p> <p>3) 安全ながん放射線治療の実施における看護師の役割について理解し実践できる。</p> <p>4) 再現性を確保するための位置合わせ・固定時の援助について理解し、実践できる。</p> <p>5) 放射線治療中に生じる心理・精神的問題と症状緩和のために必要な看護ケアを実践できる。</p> <p>6) 原疾患に伴う様々な症状のある患者への症状マネジメントについて理解し、実践できる。</p> <p>7) 臓器の体内移動が治療に及ぼす影響を理解し、最小限にするための援助が実践できる。</p>	<p>1) 確実に再現性のある治療環境の提供</p> <p>(1) 治療中に生じる危険要因とアセスメント</p> <p>① 治療室の環境要因</p> <p>② 患者要因 (心理的要因、カテーテル類、ベンチレーターをはじめとする医療機器使用時の注意点)</p> <p>(2) 小児の放射線療法における確実に再現性のある看護</p> <p>(3) 安全ながん放射線治療実施における看護師の役割</p> <p>(4) 安全な治療実施のための説明</p> <p>2) 再現性を確保するための看護支援</p> <p>(1) マーキングの管理</p> <p>(2) 固定器具の選択、治療環境の整備</p> <p>(3) 心理・精神的問題 (パニック発作・閉所恐怖症・不安・緊張・認知障害・精神科疾患など)</p> <p>(4) 原疾患や併用療法に伴う症状マネジメント (疼痛・呼吸苦・咳嗽・悪心・嘔吐・痙攣など)</p> <p>(5) 前処置</p> <p>① 頭頸部照射前の口腔管理のアセスメントと指導 (抜歯・金冠除去、スパーサー作成など)</p> <p>② 臓器移動を最小限にするための前処置の適応の確認と確実な実施</p> <p>a. 臓器の呼吸性移動</p> <p>b. 骨盤部照射時の排泄物 (尿・便・ガス) による臓器の体内移動</p> <p>c. 上腹部照射時の消化管内容物による臓器の体内移動</p>	2. がん放射線療法の治療計画管理における看護	30	<p>がん放射線療法における適切な治療計画管理とリスクマネジメントについて理解し、患者にとって確実に再現性のある治療環境の整備と精度の高い治療を保証する援助を実践できる。</p> <p>1) 放射線治療中に生じる危険要因をアセスメントし、確実に再現性のある治療環境を整えることができる。</p> <p>2) 放射線療法を受ける小児及び高齢者と家族への援助について理解し実践できる。</p> <p>3) 安全ながん放射線治療の実施における看護師の役割について理解し実践できる。</p> <p>4) 再現性を確保するための位置合わせ・固定時の援助について理解し、実践できる。</p> <p>5) 放射線治療中に生じる心理・精神的問題と症状緩和のために必要な看護ケアを実践できる。</p> <p>6) 原疾患に伴う様々な症状のある患者への症状マネジメントについて理解し、実践できる。</p> <p>7) 臓器の体内移動が治療に及ぼす影響を理解し、最小限にするための援助が実践できる。</p>	<p>1) 確実に再現性のある治療環境の提供</p> <p>(1) 治療中に生じる危険要因とアセスメント</p> <p>① 治療室の環境要因</p> <p>② 患者要因 (心理的要因、カテーテル類、ベンチレーターをはじめとする医療機器使用時の注意点)</p> <p>(2) 小児、<u>高齢者</u>の放射線療法における確実に再現性のある看護</p> <p>(3) 安全ながん放射線治療実施における看護師の役割</p> <p>(4) 安全な治療実施のための説明</p> <p>2) 再現性を確保するための看護支援</p> <p>(1) マーキングの管理</p> <p>(2) 固定器具の選択、治療環境の整備</p> <p>(3) 心理・精神的問題 (パニック発作・閉所恐怖症・不安・緊張・認知障害・精神科疾患など)</p> <p>(4) 原疾患や併用療法に伴う症状マネジメント (疼痛・呼吸苦・咳嗽・悪心・嘔吐・痙攣など)</p> <p>(5) 前処置</p> <p>① 頭頸部照射前の口腔管理のアセスメントと指導 (抜歯・金冠除去、スパーサー作成など)</p> <p>② 臓器移動を最小限にするための前処置の適応の確認と確実な実施</p> <p>a. 臓器の呼吸性移動</p> <p>b. 骨盤部照射時の排泄物 (尿・便・ガス) による臓器の体内移動</p> <p>c. 上腹部照射時の消化管内容物による臓器の体内移動</p>	<p>・旧教科目のねらい 2) 及び旧単元 1) (2) には、高齢化社会を反映し、「高齢者」を追加した。</p>

認定看護師教育基準カリキュラム(特定行為研修を組み込んでいない教育課程:A 課程教育機関)
新旧対照表 (がん放射線療法看護)

別紙

下線部は改正箇所
ゴシック体表記は、合同講義が可能な単元

u003cbr>

旧				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数	教科目のねらい	単元	
			d. 体型の変化による移動 (サードスペースの水分: 胸水・腹水・浮腫、急激な体重変化など) e. 身体の変形側弯・拘縮				d. 体型の変化による移動 (サードスペースの水分: 胸水・腹水・浮腫、急激な体重変化など) e. 身体の変形側弯・拘縮	
3. がん放射線療法を受ける患者と家族への心理及び社会的看護支援【新設】	15	発達段階とがんの病の軌跡による患者と家族の心理及び社会的状態の変化を理解して、放射線療法の目的に沿った治療が完遂できるように看護支援が実践できる。	1) がん放射線療法を受ける患者の心理状態のアセスメントとケア (1) がんのステージ及び治療過程における患者の心理的变化と対象理解、心理アセスメント (2) 患者の心理的反応に対するケア 2) がん放射線療法を受ける患者の社会的状態のアセスメントと支援 3) がん放射線療法を受ける患者の家族のアセスメントとケア 4) 発達段階に応じた患者のアセスメントと家族支援 (小児がん含む) 5) 外来通院、特殊な治療環境における心理・社会的アセスメントとケア	3. がん放射線療法を受ける患者と家族への心理及び社会的看護支援	15	発達段階とがんの病の軌跡による患者と家族の心理及び社会的状態の変化を理解して、放射線療法の目的に沿った治療が完遂できるように看護支援が実践できる。	1) がん放射線療法を受ける患者の心理状態のアセスメントとケア (1) がんのステージ及び治療過程における患者の心理的变化と対象理解、心理アセスメント (2) 患者の心理的反応に対するケア 2) がん放射線療法を受ける患者の社会的状態のアセスメントと支援 3) がん放射線療法を受ける患者の家族のアセスメントとケア 4) 発達段階に応じた患者のアセスメントと家族支援 (小児がん含む) 5) 外来通院、特殊な治療環境における心理・社会的アセスメントとケア	変更なし。
4. がん放射線療法に伴う有害事象マネジメントとセルフケア支援	60	1) がん放射線治療に伴う有害事象及びその増悪因子について理解できる。 2) がん放射線療法の身体に及ぼす有害事象をアセスメントし適切な看護ケアを実践することができる。 3) <u>放射線治療中の患者の栄養管理について理解し、実践することができる。</u> 4) 密封小線源治療に伴う有害事象をアセスメントし、適切な看護ケアを理解し、実践できる。	1) がん放射線療法に伴う有害事象の特徴 (1) 有害事象の増悪因子 ① 治療の特徴 (併用療法、照射法、回数、線量、線質) ② 患者の状態 (合併症の有無、年齢、栄養状態、セルフケア能力) (2) 有害事象発現の時期 (<u>急性期有害事象と晩期有害事象、確率的影響と確定的影響</u>) 2) 有害事象の機序、アセスメントとケア、セルフケア支援 (1) 宿酔・倦怠感 (2) <u>皮膚炎</u> (皮膚の潰瘍、脱毛を含む) (3) 消化管粘膜炎 (口腔粘膜炎を含む) (4) その他の粘膜炎 (眼瞼、陰	4. <u>がん放射線療法に伴う急性期有害事象の症状管理とセルフケア支援</u>	30	1) がん放射線治療に伴う急性期有害事象及びその増悪因子について理解できる。 2) がん放射線療法の急性期有害事象をアセスメントし適切な看護ケア及びセルフケア支援を実践することができる。	1) がん放射線療法に伴う有害事象の特徴 (1) 有害事象の増悪因子 ① 治療の特徴 (併用療法、照射法、照射回数、線量、線質) ② 患者の状態 (合併症、年齢、栄養状態、セルフケア能力) (2) 有害事象発現の時期 2) 急性期有害事象の機序、アセスメントとケア、セルフケア支援 (<u>易感染性を含む</u>) (1) 宿酔・倦怠感 (2) <u>皮膚障害</u> (皮膚の潰瘍、脱毛を含む) (3) 消化管粘膜炎 (口腔粘膜炎を含む) (4) その他の粘膜炎 (眼瞼、陰部、膀胱を含む)	・旧教科目の「4. がん放射線療法に伴う有害事象マネジメントとセルフケア支援」の60時間は1教科目として長時間であるため、「4. がん放射線療法に伴う急性期有害事象の症状管理」「5. がん放射線療法に伴う晩期有害事象の症状管理とセルフケア支援」「6. 密封小線源治療および内用療法に伴う有害事象の症状管理とセルフケア支援」の3教科目に分割した。 ・教科目や単元にはセルフケア支援についての内容が含まれるため、旧教科目のねらい2)に「セルフケア支援」を追加した。 ・単元2)「急性期有害事象の機序、アセスメントとケア、セルフケア支援」に括弧内の表記を追加した。

認定看護師教育基準カリキュラム(特定行為研修を組み込んでいない教育課程:A 課程教育機関)
新旧対照表 (がん放射線療法看護)

別紙

下線部は改正箇所
ゴシック体表記は、合同講義が可能な単元

u003cbr>

旧				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数	教科目のねらい	単元	
			部、膀胱を含む) (5) 唾液腺障害 (味覚障害を含む) (6) 消化器症状 (悪心を含む) (7) 骨髄抑制 (8) 放射線肺臓炎 (9) リンパ浮腫 (10) 白内障、視神経障害 (11) 中耳炎、難聴、聴神経障害 (12) 不妊、性腺機能障害 3) <u>放射線治療中の患者の栄養管理</u> 4) <u>密封小線源治療に伴う有害事象の機序、アセスメントとケア、セルフケア支援</u> (1) 子宮腔内照射 (2) 前立腺がん密封小線源 (3) 内用療法				(5) 唾液腺障害 (味覚障害を含む) (6) 骨髄抑制	<ul style="list-style-type: none"> 旧単元の3)「放射線治療中の患者の栄養管理」は、単元2)の「セルフケア支援」に含まれるため削除した。 旧単元1)(2)の括弧内は、教科目を急性期有害事象と晩期有害事象に分けて整理したため、削除した。 旧単元2)(2)「皮膚炎」は一般的には「皮膚障害」であるため表記を変更した。 旧単元2)(6)「消化器症状(悪心を含む)」は、単元2)(1)宿酔に含まれるため削除した。
				5. <u>がん放射線療法に伴う晩期有害事象の症状管理とセルフケア支援</u>	15	1) <u>がん放射線治療に伴う晩期有害事象及びその増悪因子について理解できる。</u> 2) <u>がん放射線療法の晩期有害事象をアセスメントし適切な看護ケア及びセルフケア支援を実践することができる。</u>	1) <u>晩期有害事象の機序、アセスメントとケア、セルフケア支援</u> (1) 放射線肺臓炎 (2) リンパ浮腫 (3) 白内障、視神経障害 (4) 中耳炎、難聴、聴神経障害 (5) 不妊、性腺機能障害 (6) <u>口腔・消化管障害</u> (7) <u>二次がん</u>	<ul style="list-style-type: none"> 教科目の分割に伴い、教科目のねらい1)、2)、単元1)を作成した。 単元1)(6)(7)は最新の動向に基づき追加した。
				6. <u>密封小線源治療及び内用療法に伴う有害事象の症状管理とセルフケア支援</u>	15	1) <u>密封小線源治療及び内用療法に伴う有害事象をアセスメントし、適切な看護ケア及びセルフケア支援を理解し、実践できる。</u>	1) <u>密封小線源治療及び内用療法に伴う急性期及び晩期有害事象の機序、アセスメントとケア、セルフケア支援</u> (1) 子宮腔内照射 ① <u>皮膚障害(陰部、肛門)</u> ② <u>消化器症状</u> ③ <u>膀胱粘膜障害</u> ④ <u>腸管粘膜障害</u> ⑤ <u>不妊、性腺機能障害</u> (2) 前立腺がん密封小線源 ① <u>排尿障害</u> ② <u>消化器症状</u> ③ <u>性腺機能障害</u> ④ <u>直腸出血</u> (3) 内用療法 ① <u>骨髄抑制</u> ② <u>消化器症状</u> ③ <u>唾液腺障害</u> 2) <u>内用療法後の排せつ物の取り扱い</u>	<ul style="list-style-type: none"> 教科目に「内用療法」の内容が含まれるため、旧教科目のねらい4)に「内用療法」を追加した。また、教科目や単元にはセルフケア支援についての内容が含まれるため、教科目のねらいにも「セルフケア支援」の内容を追加した。 教科目の分割に伴い、単元1)を作成した。旧単元4)の各治療における代表的な有害事象を単元の内容とした。 内用療法後の排せつ物の取り扱いには注意が必要なため、単元を追加した。

認定看護師教育基準カリキュラム(特定行為研修を組み込んでいない教育課程:A 課程教育機関)
 新旧対照表 (がん放射線療法看護)

別紙

下線部は改正箇所
 ゴシック体表記は、合同講義が可能な単元

u003cbr>

旧				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数	教科目のねらい	単元	
5. 放射線療法における放射線の安全な取り扱い 【新設】	15	1) 放射線療法における放射線防護について理解し、看護実践ができる。 2) 医療被曝に関する関係法令を理解し、医療者の職業被曝を最小限とすることができる。	1) 放射線防護に関する法令・基礎知識 2) 医療者の職業被曝低減のための方策 3) 治療の特徴を踏まえた放射線防護 (1) 外部照射に関する放射線防護 (2) 密封小線源治療に関する放射線防護 (3) RI 内用療法における放射性同位元素に関する放射線防護 (4) 看護師への指導	7. 放射線療法における放射線の安全な取り扱い	15	1) 放射線療法における放射線防護について理解し、看護実践ができる。 2) 医療被曝に関する関係法令を理解し、医療者の職業被曝を最小限とすることができる。	1) 放射線防護に関する法令・基礎知識 2) 医療者の職業被曝低減のための方策 3) 治療の特徴を踏まえた放射線防護 (1) 外部照射に関する放射線防護 (2) 密封小線源治療に関する放射線防護 (3) RI 内用療法における放射性同位元素に関する放射線防護 (4) 看護師、 <u>患者・家族</u> への指導	・患者・家族への指導は、がん放射線療法看護認定看護師の重要な役割でありニーズが高いため、旧単元 3) (4) には、「患者・家族」を追加した。
計	150			計	150			

認定看護師教育基準カリキュラム(特定行為研修を組み込んでいない教育課程:A 課程教育機関)
新旧対照表 (がん放射線療法看護)

別紙

下線部は改正箇所
 ゴシック体表記は、合同講義が可能な単元

u003c/div>

【学内演習/実習】

旧				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数	教科目のねらい	単元	
学内演習	60	<p>がん放射線療法看護認定看護師として行動の基盤となる思考過程とスキルを身につける。</p> <p>1) 施設内の放射線防護に対する方策を理解し、自施設での看護職員の放射線防護策に適用することができる。</p> <p>2) コミュニケーションスキルを身につけ、患者や家族への指導や関わり・他職種間のディスカッションに活かすことができる。</p> <p>3) 放射線治療を実施する施設の見学を通して、放射線治療の取り組みと課題について考察を深める事ができる。</p> <p>4) 自己の看護実践事例を用いて分析し、専門的看護ケアにおける看護の役割・自己の課題を明らかにできる。</p>	<p>1) 施設内職員の放射線防護に関する方策の検討</p> <p>2) 効果的なコミュニケーションのための演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者や家族への説明 ・外来などでの短時間での関わり ・意思決定支援 ・Bad News の伝え方 ・他職種間のディスカッションを想定したコミュニケーション <p>3) 最新の放射線治療を実施する施設見学</p> <p>4) 実習での受け持ち患者のケースレポート作成</p>	学内演習	60	<p>がん放射線療法看護認定看護師として行動の基盤となる思考過程とスキルを身につける。</p> <p>1) 施設内の放射線防護に対する方策を理解し、自施設での看護職員の放射線防護策に適用することができる。</p> <p>2) コミュニケーションスキルを身につけ、患者や家族への指導や関わり・他職種間のディスカッションに活かすことができる。</p> <p>3) 放射線治療を実施する施設の見学を通して、放射線治療の取り組みと課題について考察を深める事ができる。</p> <p>4) 自己の看護実践事例を用いて分析し、専門的看護ケアにおける看護の役割・自己の課題を明らかにできる。</p>	<p>1) 施設内職員の放射線防護に関する方策の検討</p> <p>2) 効果的なコミュニケーションのための演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者や家族への説明 ・外来などでの短時間での関わり ・意思決定支援 ・Bad News の伝え方 ・他職種間のディスカッションを想定したコミュニケーション <p>3) 最新の放射線治療を実施する施設見学</p> <p>4) 実習での受け持ち患者のケースレポート作成</p>	変更なし。
臨地実習	180	<p>がん放射線療法を受ける患者とその家族について、専門的知識・技術を用いて的確にアセスメントし、看護計画の立案、実践、評価ができる。</p> <p>1) がん放射線療法を受ける患者に、確実に効果的な治療計画を保証するための看護を提供できる。</p> <p>2) 身体・心理・精神面等多角的なアセスメントを行いセルフケア支援や治療を完遂するための支援ができる。</p> <p>3) 密封及び非密封小線源治療とそれに伴う特徴的な有害事象と看護ケアについて理解できる。</p> <p>4) 放射線防護に関する実習施設での取り組みを見学し、自施設での課題を明らかにできる。</p>	<p>1) 放射線療法の準備、治療中、治療終了後までの一連の治療過程にある患者を受け持ち、以下の内容を実践する。</p> <p>(1) 放射線治療計画遵守のための前処置、再現性の確保のためのケア、患者指導</p> <p>(2) 有害事象のマネジメント</p> <p>受け持ち患者の要件は以下それぞれの患者を1名ずつ、計2名受け持つ。</p> <p>①集学的治療に伴う外照射治療の患者</p> <p>②緩和目的で放射線治療を受ける患者</p> <p>2) 特殊治療の見学を行うことが望ましい。以下の(1)(2)(3)に該当する患者の見学実習を行うことが望ましい。</p> <p>(1) 密封及び非密封小線源治療(放射線核種(RI)内用療法)</p>	臨地実習	180	<p>がん放射線療法を受ける患者とその家族について、専門的知識・技術を用いて的確にアセスメントし、看護計画の立案、実践、評価ができる。</p> <p>1) がん放射線療法を受ける患者に、確実に効果的な治療計画を保証するための看護を提供できる。</p> <p>2) 身体・心理・精神面等多角的なアセスメントを行いセルフケア支援や治療を完遂するための支援ができる。</p> <p>3) 密封及び非密封小線源治療とそれに伴う特徴的な有害事象と看護ケアについて理解できる。</p> <p>4) 放射線防護に関する実習施設での取り組みを見学し、自施設での課題を明らかにできる。</p>	<p>1) 放射線療法の準備、治療中、治療終了後までの一連の治療過程にある患者を受け持ち、以下の内容を実践する。</p> <p>(1) 放射線治療計画遵守のための前処置、再現性の確保のためのケア、患者指導</p> <p>(2) 有害事象のマネジメント</p> <p>受け持ち患者の要件は以下それぞれの患者を1名ずつ、計2名受け持つ。</p> <p>①集学的治療に伴う外照射治療の患者</p> <p>②緩和目的で放射線治療を受ける患者</p> <p>2) 特殊治療の見学を行うことが望ましい。以下の(1)(2)(3)に該当する患者の見学実習を行うことが望ましい。</p> <p>(1) 密封及び非密封小線源治療(放射線核種(RI)内用療法)</p>	変更なし。

12

**認定看護師教育基準カリキュラム(特定行為研修を組み込んでいない教育課程:A 課程教育機関)
新旧対照表 (がん放射線療法看護)**

別紙

下線部は改正箇所
ゴシック体表記は、合同講義が可能な単元

u003c/div>

旧				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数	教科目のねらい	単元	
		5) 認定看護師の活動について理解を深め、自己の課題を明らかにできる。 6) 放射線療法に携わる看護師に対して、事例やカンファレンスを通して指導ができる。 7) 相談のプロセスを見学・考察し、がん放射線療法看護認定看護師として相談のスキルを身につけられる。	法) を受ける患者 (腔内照射・前立腺シード埋め込み・ヨード内服・ストロンチウム投与・イットリウム投与患者など) (2) 高精度放射線治療 (IMRT: 強度変調放射線治療、SRI: 定位放射線照射、IGRT: 画像誘導放射線治療など) を受ける患者 (3) 晩期障害を呈する患者 3) 施設における放射線防護の設備やシステムについて学ぶ。 4) 多職種間カンファレンスや症例検討等の場において、チーム医療における協働について考察する。 5) 放射線療法に携わる看護師に対する指導 6) がん放射線療法看護認定看護師等の相談場面の見学を通して、相談のプロセスを考察する。 7) がん放射線療法に関わる看護師 (専門看護師、認定看護師など) の活動を把握し、認定看護師の役割を考察する。			5) 認定看護師の活動について理解を深め、自己の課題を明らかにできる。 6) 放射線療法に携わる看護師に対して、事例やカンファレンスを通して指導ができる。 7) 相談のプロセスを見学・考察し、がん放射線療法看護認定看護師として相談のスキルを身につけられる。	を受ける患者 (腔内照射・前立腺シード埋め込み・ヨード内服・ストロンチウム投与・イットリウム投与患者など) (2) 高精度放射線治療 (IMRT: 強度変調放射線治療、SRI: 定位放射線照射、IGRT: 画像誘導放射線治療など) を受ける患者 (3) 晩期障害を呈する患者 3) 施設における放射線防護の設備やシステムについて学ぶ。 4) 多職種間カンファレンスや症例検討等の場において、チーム医療における協働について考察する。 5) 放射線療法に携わる看護師に対する指導 6) がん放射線療法看護認定看護師等の相談場面の見学を通して、相談のプロセスを考察する。 7) がん放射線療法に関わる看護師 (専門看護師、認定看護師など) の活動を把握し、認定看護師の役割を考察する。	
計	240			計	240			

【時間数】

現行	
共通科目	105 時間 (+305 時間)
専門基礎科目	120 時間
専門科目	150 時間
演習/実習	240 時間
総時間	615 時間 (+305 時間)

改正案	
共通科目	105 時間 (+305 時間)
専門基礎科目	120 時間
専門科目	150 時間
演習/実習	240 時間
総時間	615 時間 (+305 時間)

13